



“鑑賞”から“体験”へ、進化する視覚障がい者向け『手で見える絵画(2.5Dリアルプリンティング)』三部作

佐川印刷株式会社
佐川正純（愛媛県）



工夫点

この作品は、愛媛県美術館と共同で、視覚障がい者が触覚を通じて美術作品を鑑賞する新たな方法を提供するために制作しました。

従来から実物と同じ凹凸を施した絵画のレプリカは存在しましたが、ほかの絵画との違いや、奥行きや遠近感を十分理解するのが難しいという課題がありました。そこで、1枚の絵画を構成要素ごとに分解し、本来重なって見えない部分を想像して追加加工、各要素には凹凸や触感を独立させる方法で製作しました。

これにより、遠近感ごとの各パートが独立した作品として成立し、視覚障がい者が触覚を通じてより深い美術鑑賞を楽しめるようになりました。実際の視覚障がい者のワークショップでも高い評価を得ています。

講評

従来の視覚による鑑賞に触覚を加えることで、新しい視点を提供する革新的な取り組みです。この体験は、視覚障害を持つ方や色弱の方々を含め、すべての人がアートにアクセスできることを目的としており、メディア・ユニバーサルデザインの理念を体現する素晴らしい事例です。

触覚による新しい鑑賞の可能性として、通常触れることが許されない絵画を「さわって理解する」仕組みが提供されており、視覚情報に依存しない新しい絵画鑑賞の形が提示され、レイヤー構造によって絵画の構成要素が分解され、触覚を通じて視覚的な作品の本質や意図を深く理解できるよう工夫されています。

ミュージアムショップのみならず、教育機関や地域イベントでの販売を通じて、多くの人に手が届く仕組み作りを印刷業界含め取り組んでもらえることを期待します。

